



地域防災促進事業



ごみ袋を使った防災カップづくり



防災クイズ

平成29年12月10日に鹿児島県防災研修センターで、霧島市在住の外国人（外国人とその家族、留学生）及び日本人関係者（霧島市各地区の公民館長、国際交流関係者）が、防災について学ぶ「地域防災促進事業」を実施しました。

防災研修センターでは、非常持ち出し用袋に何を入れるか、どのくらいの重さなら持つことができるのかを、一人一人、重さ当てクイズをしながら学びました。

また、「火山災害コーナー」、「風水害・土砂災害コーナー」、「地震コーナー」や「火災コーナー」を見学し、展示物に触れながら鹿児島で起こる災害や防災について学びました。

非常時には身近にあるもので対応する必要があるため、家庭にあるビニール製のごみ袋を使って防災カップ作りを行いました。参加者の皆さんには、防災についての知識を身に付けて頂いたことで、更に防災についての関心を持って頂けたようです。

午後からは、昼食を食べながらの交流会や街歩き等を通してお互いに交流をしました。参加者の皆さんからは、「地域の防災について考えさせられ大変勉強になった。」「防災研修センターの担当者、蒲生の街歩きのガイドさんとも、分かりやすく丁寧に説明して頂いた。」「日本の方と

交流でき本当に嬉しい。」との感想も聞かれました。

今回は、鹿児島県防災研修センター、霧島市役所、第一工業大学、始良市役所、始良市観光ボランティアガイド会の皆様にご協力いただき実施することができました。皆様、本当にありがとうございました。

夏の英語で楽しむアートクラス



完成した絵と一緒に（講師中央）

平成29年8月4日に県内の小学生に英語と美術の両分野に興味を持っていただくことを目的に、初の試みとして当事業を実施しました。シンガポール出身のクエクインヤン国際交流員が講師として、歌とゲームを交えながら英単語と視覚混合の技法を英語で教えました。制作時間では、参加者16名が講師によるアドバイスの元、夏休みの課題や趣味の絵に没頭し、個性溢れる作品を仕上げました。

参加者たちは、英語に耳を慣らすだけでなく、自己紹介と制作発表を英語で話すことにも挑戦しました。今後も、幼少期から楽しく英語に触れる機会を提供していきたいと思っております。

日本語・日本理解講座



日本語教室の様子

鹿児島で生活する外国人が、生活に役立つ日本語・日本人の生活習慣や様式などについて学ぶ「在住外国人のための日本語・日本理解講座」を平成29年5月から平成30年2月まで全60回（火曜日クラス30回、木曜クラス30回）実施しました。

今年度は、日本のニュースについて感じたことを意見交換したり、ことわざについて学んだりしました。また、受講者自身が先生の立場となり、クラスみなさんに出身国の言葉を紹介する授業も行いました。各期最後の授業では、今までの振り返りとともに、それぞれが手作りした出身国の料理を持ち寄り、覚えた日本語を使いながら、料理の味や名前を説明し交流しました。開講式当初は緊張した面持ちの受講者でしたが、「もっと日本語が上手になりたい。」と、受講者同士で励まし支え合いながら積極的に学習し、日本語や日本文化に対する理解だけでなく、国籍・文化の違いを超えた仲間との友好が深められたようです。

日本語サロン おしゃべりひろば



天吹講師との集合写真

日本語の日常会話が可能な在住の外国の方を対象に、フリートーキングを主な内容とする「日本語サロン おしゃべりひろば」を平成29年5月から平成30年3月まで、全20回実施しました。

ここでは「明治維新～鹿児島の歴史について～」、「鹿児島の伝統楽器天吹について」等をテーマに、講師の先生から鹿児島に縁があって在住されている外国人の皆さんに鹿児島の歴史や伝統を身近に感じて頂く機会を提供して頂きました。

また、おしゃべりひろばの参加者に講師になって頂き、鹿児島で習得した「おせち料理」や自分で経験した「国際結婚」等のテーマについて話題を提供して頂きました。参加者より「講師を初めて体験し、自分の経験を活かす場面があり嬉しかった。」「鹿児島で生活する上で必要な情報を得ることができて、毎回の参加が楽しみになった。」という声が寄せられました。これをきっかけに参加者同士の輪が広がり、楽しみながら日本語を学ぶ意欲に繋がって頂けることを期待しています。

英語絵本の読み聞かせ講座



大口図書館にて

幼少期から英語に触れる機会を提供することで英語への関心を高めることを目的とし、3才から小学生くらいまでの子どもを対象に国際交流員による英語絵本の読み聞かせ講座を今年度は15回実施し、そのうち4回は出張講座としてさつま町、伊佐市、知名町及び南九州市で行いました。

出張講座などでは、子ども達にとって日本語でおなじみの絵本「はらぺこあおむし」を中心に3冊の絵本を読みました。講座では、県の国際交流員のウィリアムさんが講師となり、「はらぺこあおむし」にでてくる果物の名前などを子ども達と一緒に発音し、次に果物の名前と絵を合わせるゲームを行い、その後に絵本を読むことで、子ども達が自然に内容を理解でき、楽しめるような工夫をしました。保護者の方からは「楽しみながら英語を学べる時間でした。又、参加したいです！」等の感想を頂きました。これからも子どもたちが、楽しく英語に触れる機会となるよう工夫していきます。

鹿児島で世界を語ろう～第23回外国人による日本語スピーチコンテスト～

平成30年1月20日の予選に18カ国・地域から52名の外国籍の方が出場し、その中から選ばれた10名（7カ国）の方が1月27日の本選に出場しました。最優秀賞を受賞したのは、「私のくん章」というスピーチをした、韓国出身で鹿児島市立紫原小学校6年の鄭 暁林（ジョン ヒョリム）さんです。

鄭さんにとって、2年前にお父さんの仕事関係で初めて来た日本は、慣れなくて不便な事ばかり。来日当初はまったく日本語が話せなかったため、日本語ができるようになりたいと、漢字を書く練習を何度も繰り返すうちにできた中指のペンだこが「私のくん章だ」と語りました。また、先生や友だちなど周りの協力のおかげで日本語が上達したことや、鹿児島が大好きになったことで海外へ行くことの大切さを知り、将来は外交官になって国と国とを繋ぎたいと、元気よく539名の聴衆に語りかけました。

他にも、出場者の皆さんは、出身国と日本の違いや、いろいろな国籍の人たちとの交流で感じた多様性の美しさ、また鹿児島のよさなどを、流暢な日本語で発表し会場を沸かせ、時には涙を誘いました。今後も一人でも多くの県民の皆さまに、国籍や文化の違いを越えた国際交流の場をご提供できればと思います。



本選出場者（前列）と審査員（後列）

県国際交流員による文化紹介講座

県国際交流員（韓国・中国・アメリカ・シンガポール出身）の4名が、県民の国際理解を促進し、多文化共生の地域づくりへの関心を高めることを目的に、自国の文化や料理を紹介する講座を5回にわたり開催しました。いちき串木野市での「韓流ドラマやK-POPなどから韓国文化を学ぶ」、始良市での「シンガポール料理・文化講座」、湧水町での「ビストロ交流会」等、多くの県民の方が参加しました。

薩摩川内市では、韓国出身の徐希京国際交流員が韓流ドラマでよくあるシチュエーションや、K-POPのアイドル業界とファン事情について紹介し、笑い声と驚きの絶えない文化紹介講座となりました。質疑応答の時間では、韓国ドラマと実際の生活の違いについてなど、多くの質問が寄せられ、参加者の皆様の韓国文化への関心の高さが伺えました。参加者からは「韓流ドラマやK-POPだけではなく、韓国社会のいろいろな情報も聞けて非常によかった。」という感想をいただきました。

今後も、当事業が県民の皆様と国際交流や文化の相互理解の促進を図っていただけることを期待しています。



薩摩川内市での講座の様子

県内在住外国人による公募型国際理解講座

県内に在住する外国籍の方を講師として募集し、自国の文化を紹介する公募型国際理解講座として平成29年度は「ペルー文化紹介講座」と「イスラム文化紹介講座」を実施しました。

ペルー出身の講師によるペルー文化紹介講座は、当協会と放送大学鹿児島学習センターとの共催で開催した「マチュピチュに魅せられた日本人と古代アンデス文明」展において実施し、来場者の方々には、ペルーに関するクイズ等を通してペルーへの理解を深めていただきました。また、ペルー鹿児島県人会についての展示物もあり、多くの方々に鹿児島とペルーとの繋がりや歴史を感じていただきました。

エジプト出身の講師による「イスラム文化紹介講座」では、イスラムについての基本的な情報や文化だけでなく、ムスリムから見た鹿児島についての話やハラール体験等を実施しました。講座を通して参加者の方々は、普段意識することのない視点からイスラム文化について感じる事ができたようです。

今後もこれらの講座が、在住外国人の方々と県民の方々が触れ合い、互いの存在や文化について理解し、多文化共生の地域づくりにつなげる場になるよう期待します。



ペルー文化紹介講座の様子

鹿児島県青少年国際協力体験事業



ポーン村にて

にあるポーン村に派遣いたしました。

派遣期間中、4泊5日のポーン村でのホームステイや学校交流では、言葉や習慣の違いに戸惑いを感じながらも現地の人々の優しさに触れ、充実した時間を過ごすことができました。また、青年海外協力隊員の活動視察では、日本とは全く異なる環境に衝撃を受けると同時に、発展途上国への支援のあり方を考える機会となりました。

この研修での経験を今後の成長の糧として、参加者の皆さんが将来あらゆる場面で活躍することを願っています。

この事業は、青年海外協力隊の活動現場に県内の中高生を派遣し、国際協力に対する理解を深めるとともに、ホームステイ等の異文化体験を通して、国際性豊かな青少年を育成するため、鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊鹿児島県OB会、当協会の3者で実行委員会を組織し、実施しています。今回で26回目を迎え、これまで延べ331名の中高生を東南アジア6カ国に派遣してきました。

今年度は、平成29年7月23日から30日までの8日間、県内各地から選抜された16名の中高生をラオス人民民主共和国ビエンチャン県

協力隊OBと留学生が先生事業



南九州市立清水小学校にて

う言葉が印象的だった。」等の感想を頂きました。教科書やインターネットの情報ではなく、実際に協力隊員や海外からの留学生と交流し、体験談を聞くことは、子ども達にとって、改めて日常生活や将来について見つめ直す大切な機会となっているようです。これからもこの事業が、未来を担う子どもたちに、世界を身近に感じるきっかけとなることを期待しています。

鹿児島青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊鹿児島OB会と当協会の3団体が実施しているこの事業は、年間40校以上の学校で実施しており、平成7年度の事業開始から、延べ910校以上の県内小・中学校に、青年海外協力隊として世界各国で活動していた帰国隊員や県内に在住する外国人を講師として派遣しています。平成28年度から特別支援学校への派遣も開始しました。

児童・生徒からは、「国境を越えて活躍する講師のように、勇気をもって大きなことにチャレンジしたい。」「『世界の人々はみんな平等』とい

多文化共生の地域づくり事業



医療機関における外国人への支援講座の様子

また、平成29年12月2日には、語学ボランティアや関係機関を対象に「災害時における外国人への支援講座」を実施し、29名の参加者同士で意見交換等を行いました。

2つの講座の参加者から「日頃から外国人との顔の見える関係が災害時において大切な役割を果たすことが分かった。」「長く鹿児島に在住している外国人として、今後困っている他の外国人の力になりたい。」との声がありました。これらの取り組みが多文化共生の地域づくりに繋がることを願っています。

外国人が医療機関受診時に感じる困難等を当協会の語学ボランティアや医療機関の皆様にとって頂くための講座として「医療機関における外国人への支援講座（語学ボランティア勉強会）」を平成29年12月17日に実施しました。「NPO法人多言語社会リソースかながわ」から講師をお招きし、31名の参加者が受講しました。

この講座では、医療機関での基礎的な通訳技術と心得を学び、言語ごとに分かれ医療機関での受診を想定した通訳のロールプレイを実施しました。

地域国際交流促進事業

この事業は、鹿児島県民の方々に国際交流への関心を高めてもらうため、地域在住の外国籍の方々や国際交流団体と協力しながら、県内各地のイベントに当協会の国際交流ブースを出展しています。今年度は、鹿児島市での「MBC 夏祭り」、肝付町での「高山やぶさめ祭」、知名町での「生涯学習フェスティバル」、日置市での「まるごと伊集院フェスティバル」に参加しました。

3年ぶりのブース出展となった知名町では「カラーティッシュ工作」「外国の新聞を使ったエコバッグ作り」「世界の挨拶スタンプラリー」「外国の切手を使ったしおり作り」を行いました。民族衣装試着体験では、子どもから大人まで好きな衣装を着て、写真を撮るなど夢中になって楽しんでいただくなど、離島の皆様に異文化に親しんで頂く良い機会となりました。



生涯学習フェスティバルの様子

韓国全羅北道文化探訪団派遣事業

韓国の全羅北道庁からの招待を受けて、県民の方を全羅北道に派遣するこの事業も、今回で9回目となりました。今年度は、鹿児島で日本舞踊の普及・指導を行っている「国際文化交流会TEN」の12名の皆様が、平成29年11月1日から5日までの5日間全羅北道を訪問いたしました。

滞在期間中は、全羅北道の南原市農楽団との舞踊を通じた交流、益山百済文化史跡地や全州韓屋村の視察、ミュージカル「沈清」の観賞などにより全羅北道の歴史・文化に直接触れる充実した時間を過ごしました。

文化交流では、国際文化交流会TENの皆さんと南原市農楽団の方々が同じ舞台上でそれぞれの舞踊を披露し合い、参加者からは、「踊るスタイルは違っても、お互いの伝統文化を知る良い機会になった」等の感想を頂きました。この事業を通じて、鹿児島と全羅北道の友好関係がますます深まることを願っています。



南原市農楽団の皆さんと

香港城市大学専上学院日本語研修

平成29年7月9日から30日までの22日間に渡り、香港城市大学専上学院の学生12名が、日本語学習を始め、ホームステイ（7泊8日）、浴衣着付け、茶道、日本料理作り、まんが講座、おぎおんさあ参加などを含む研修や体験を行いました。

今回は鹿児島国際大学を初めて訪問し、同年代の学生の皆さんと交流を深めました。一緒に学内を見学したり、学食を食べるなどして、日本の大学の環境を知る良い機会になりました。ホームステイ対面式では、全員とても緊張していましたが、日本の家庭で約1週間生活し、家族の温かさに触れ、あっという間に家族の一員になったようで、お別れ会や空港ではお別れを惜しんでいました。

日本語の先生方、文化講座の先生方を始め、この事業に関わって下さった多くの方々のおかげで学生が全身で鹿児島を味わうことができました。

この研修を経て、香港へ戻った12名の学生たちが、日本や鹿児島への理解・関心を更に深めて、今後、鹿児島と香港の架け橋へとなってくれることを願っています。



浴衣着付け体験

鹿児島県人世界大会

県内経済団体や行政機関等で組織する『鹿児島県人世界大会』開催実行委員会では、明治維新150周年を機会に、世界各地の県人会をはじめ海外に居住する鹿児島にゆかりのある方や全国で活躍する鹿児島県出身者などの皆様に一堂に会していただき、故郷との絆や参加者相互の親睦と交流を深め、新たなグローバルネットワークの形成や世界レベルでの経済交流の促進を目的に、平成30年11月に「鹿児島県人世界大会」を開催いたします。多くの皆様の鹿児島へのお越しをお待ちしております。

JICA情報

いつか世界を変える力になる。 ～JICAボランティア～

世界を変えてきたのは、いつの時代も、たったひとりの強い想いだ。



JICAボランティアとは、「お互いの価値観・生活様式・文化を尊重し、直接ふれあい、交流しながら、貧困問題、環境問題などその国の社会の抱える問題に取り組み、経済や社会の発展に貢献することを目的としたボランティア」です。1965年の発足以来、鹿児島県からは延べ912名（平成29年10月31日現在）がボランティア事業へ参加し、世界中に派遣されてきました。

昨今、企業活動がグローバル化する中、それに対応する素養を備えた人材の確保も課題となっております。

JICAではこのようなニーズに応えられるよう、企業と連携してグローバル人材の育成に貢献する「民間連携ボランティア制度」を創設しました。制度を利用した人材育成を目的にJICAボランティアへの参加を検討する企業も増えてきております。

帰国後は、ボランティア事業の参加を通して身に着けた知識や経験を、日本の地域や世界の発展に役立てることが期待されております。日本も元気にすべく社会還元に精進してまいります。

鹿児島県国際交流協会内にはJICA事業の窓口として、「JICA デスク鹿児島」があります。

JICAボランティアや国際協力にご関心のある方は、下記連絡先までお気軽にお問い合わせ下さい。

<JICA デスク鹿児島> TEL : 099-221-6624 (直通) E-mail : jicadpd-desk-kagoshimaken@jica.go.jp

国際交流プラザのご案内

<主な事業内容>

- ・ イベント情報等の掲示板
- ・ 国旗、民族衣装、地図、ユニセフビデオの貸し出し
- ・ 外国語新聞、図書、雑誌等の閲覧
- ・ 在住外国人の生活相談
- ・ 中国語ランチタイムトーク（毎週火曜12:00～13:00）
- ・ 韓国語ランチタイムトーク（毎週水曜12:30～13:30）
- ・ ランチタイムイングリッシュクラブ（毎週金曜12:00～13:00）



国際交流に関するご質問や、ホストファミリー・語学ボランティアの登録については、随時受け付けております。お気軽にお立ち寄りください。

《開館時間》 9:00～17:00（火曜日～日曜日）

《休館日》 月曜日（但し祝日の場合はその翌日）

年 末 年 始（12月29日～1月3日）



【国際交流プラザ、本誌に関する問い合わせ先、相談窓口】 公益財団法人 鹿児島県国際交流協会

〒892-0816 鹿児島市山下町14番50号 かがしま県民交流センター1階 TEL : 099-221-6620 FAX : 099-221-6643

E-mail : kia@po.synapse.ne.jp

ホームページ : <http://www.synapse.ne.jp/kia/>

Facebook : <https://www.facebook.com/Kagoshima.Intl.Assoc/>

★当協会のホームページをリニューアルしました。